

DXの取り組み例、6社が紹介

県内外の6社が自社でのデジタルトランスフォーメーション（DX）に関する取り組みを紹介する「DX交流会」が24日、秋田市のアキタパークホテルで開かれた。県内の中小企業経営者ら約60人が参加し、DXの意義や活用法を学んだ。

DXに積極的に取り組む企業として、国の「DX認定」を受けている6社の経営者らが登壇した。印刷機械製造の宮腰精機（大仙市）は印刷機用に関与した人工知能（AI）でインクと水の量の調整を自動化し、業務削減や他社製品との差別化につなげたと紹介した。

同社の藤原鈴司取締役工場長は「DX認定を取得してからは、大卒などの人材も入社してくれるようになった。DXの導入は大変だ



経営者らが取り組みを紹介したDX交流会

が、始めると次々に視野が広がっていく」と話した。

このほか、企業のDX支援を手がけるDX経営研究所（東京）の澁谷裕以代表取締役が講演。登壇した経営者らによるパネルディスカッションも実施した。

交流会は、あきた企業活性化センターが主催。秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム製造業・サービス業部会の共催で初開催した。

（出澤陽立）

このほかの登壇企業は次の通り。

▽鈴和商店（秋田市）▽セーコン（横浜市）▽秋田マテリアル（にかほ市）▽武州工業（東京都）▽NISSYO（同）